

## ターボ機械協会誌 執筆要領

<b>目 次</b>	<b>P1</b>
<b>1章 原稿表紙</b>	<b>P2</b>
1-1 一般事項	P2
1-2 記載留意事項	P2
<b>2章 原稿執筆の注意点</b>	<b>P3</b>
2-1 用紙および文字数	P3
2-2 アブストラクトおよびキーワード	P4
2-3 本文	P4
<b>3章 図(写真を含む)および表</b>	<b>P5</b>
3-1 取り扱いについて	P5
3-2 作成について	P5
3-3 留意事項	P5
<b>4章 量記号および単位記号, 文字, 数字記号および式について</b>	<b>P6</b>
4-1 用字・用語例	P6
4-2 単位・量記号	P6
4-3 数学記号および式	P6
<b>5章 参考文献について</b>	<b>P6</b>
<b>6章 照会および校正</b>	<b>P7</b>

## ターボ機械協会

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6 丁目 3 番 2 6 号 (日本工業出版ビル)

Tel: 03-3944-8002

Fax: 03-3944-6826

E-mail: turbo-so@pop01.odn.ne.jp

# 1 章 原稿表紙

## 1-1 一般事項

- ターボ機械協会から送付される原稿表紙に必要事項を記入すること。

## 1-2 記載留意事項

### 1. 掲載欄

- (1) 掲載欄は該当するものを○印で囲むこと。

### 2. 題目

- (1) 題目は執筆内容を明確に示し、しかも簡潔なものが望ましい。
  - a. 非常に一般的で、単行本の題目となるようなものは避ける。
  - b. 必要に応じて、副題をつけることもできる。
  - c. 会社名、製品名を題目に使用しないように配慮する。

### 3. 英文タイトル

- (1) 英文タイトルは必ず記入する。
- (2) 英文タイトルは和文タイトルの直訳である必要はないが、同一内容とすること。
- (3) 英文タイトルは以下の細則によること。
  - a. タイトルの各単語(途中にくる冠詞、前置詞などを除く)の先頭の文字は大文字で表記する。
  - b. ハイフンを用いて作られる複合語は原則として一般的に用いられている単語に限ること。また、ハイフンの後は大文字にすること。
  - c. 現在分詞、過去分詞の頭文字は大文字とするが、including、excludingなどの前置詞として使用される言葉は小文字とすること。
  - d. inside、outsideを名詞、形容詞、副詞として使う場合は大文字とし、前置詞として使う場合は小文字とすること。
  - e. 和文でかぎ括弧「」を使用している場合、英文ではダブルクォテーション“ ”を使用すること。
  - f. TurbomachineryはTurboとmachineryで分けずに一語にすること。複数形は使用しない。
  - g. 可算名詞が単数形の場合、不定冠詞aもしくはanを付けること。
  - h. 不可算名詞の前には冠詞を原則として付けないこと。
  - i. 定冠詞theは必要と判断される場合に付けること。例えば、タイトルの中で前出の場合、最上級の形容詞と共に使う場合、唯一の物や人に使う場合など。

### 4. 執筆者および連名者

- (1) 著者英文名(執筆者および連名者)は名、姓の順とし、名は最初の文字のみ大文字、姓は全て大文字で表記する。  
例 機械 太郎 → Tarou KIKAI
- (2) 著者の勤務先は事業所名、学部名またはこれに準じる名称まで記入する。  
例 ○○機械(株) ○○事業所 または ○○大学
- (3) 退職している場合は、差し支えない限り旧勤務先を記入する。

### 5. 連絡先

- (1) 代表者のE-mail アドレスを記載すること。  
同アドレスは照会等に用いられると共に各記事の第1ページ脚注に掲載される。
- (2) E-mail アドレスの記載を希望しない場合は「記載不可」に○印すること。

## 6. 機種別分類および現象別分類

(1) 該当する機種および現象を下記表から選ぶこと(複数選択可)。

機種別分類		現象別分類	
A	ポンプ	00	開発・設計、最適化、製造、規格動向、コスト
B	水車	01	性能・効率
C	送風機、圧縮機	02	流れ(内部流れ、超音速流れ、噴流、境界層等)
D	蒸気タービン、ガスエキスパンダー	03	不安定現象(サージング、旋回失速等)
E	ガスタービン(ジェットエンジン等を含む)	04	信頼性(フェイルセーフ、強度、機器寿命等)
F	風車	05	環境、騒音
G	構成部品一般(軸受、シール装置、ギヤ等)	06	制御システム(保守、監視、運転等)
H	プラント、配電システム	07	計測技術(可視化技術等を含む)
I	ターボチャージャ	08	材料
J	プロペラ	09	振動・ローターダイナミクス
K	トルクコンバータ、流体継手	10	トライボロジー
L	容積型流体機械	11	構造・強度
M	マイクロ・ナノマシン	12	伝熱・冷却
N	計測機器	13	キャビテーション、気泡
O	エア/アンダーウォーター・ビークル(ドローン等)	14	その他
P	新エネルギー関連機械		
Q	その他		

## 2章 原稿執筆の注意点

### 2-1 書式および設定

#### 1. 書式

(1) パソコンを用い、A4縦 左横書きとする。

(2) 書式設定は21文字×37行に統一する。

#### 2. 記述順序

(1) 原稿執筆の順序は、題目、(英文タイトル)、著者名、著者所属、(E-mail)(アブストラクト)、(キーワード)、本文の順に記述する。

(2) 添付資料の原稿執筆見本を参照すること。

(3) 題目、英文タイトル、著者名、著者所属、E-mail は「第1章 原稿表紙、1-2章記載留意事項」を参照すること。

#### 3. 文字数

(1) 掲載種類別ページ数(又は依頼ページ数)を超過しないように配慮すること。なお、掲載種類別ページ数は「ターボ機械協会誌投稿要領、4. 原稿の分類・定義」参照のこと。

(2) 刷り上り1ページ当たりの文字数は図表を含め\*1,554字(21字×37行×2コラム)である。

\*注 図表の文字換算は、執筆要領 3章3-3 2の図表の文字換算を参照方。

(3) 第1ページは表題、著者名、著者写真などが入るため下記の文字数を目安とする。

掲載内容	アブストラクト有り	アブストラクト無し
論文	693字(21字×33行)	
技術資料	693字(21字×33行)	903字(21字×43行)
展望・解説	651字(21字×31行)	903字(21字×43行)
その他		1,071字(21字×51行)

## 2-2 アブストラクトおよびキーワード

### 1. アブストラクト(英文)

- (1) 200～300ワードの英文とする。
- (2) アブストラクトの要否は下記表による。

掲載内容	アブストラクトの要否
論文	必要
技術資料	省略可
展望解説	
その他	不要

### 2. キーワード

- (1) アブストラクトをつける場合は、5 つ以内の英語のキーワードを記載し、そのうちの少なくとも1つは「(3) キーワード」から選ぶことが望ましい。
- (2) 英単語の先頭文字は大文字で表記すること。

#### (3) キーワード

Pumps, Compressors, Fans and blowers, Hydro turbines Storage pumps & pump turbines, Gas and steam turbines, Wind turbines, Propulsion, Fluid couplings and torque converters, Elements for fluid machinery and systems, Flow sensors and measurements, Vibrations and rotor dynamics, Jet technology, Fluid sealing and lubrication, Operation, monitoring, maintenance, cost & life evaluation, Pipelines and distribution systems, Design and manufacturing for fluid machinery and systems, Materials for fluid machinery and systems, Erosion, corrosion, and wear, Cavitation, condensation and two phase flows, New application of turbomachinery, Renewable energy, Mitigation of impact on environment & improvement of environment, Reduction of CO2 emission, Energy Technology for Sustainable Development, Application of MEMS, Micro & nano fluid systems, General fluid and structural mechanics of fluid machinery

## 2-3 本文

### 1. 論文の体裁

- (1) 下記の順序を標準とするが、著者はその内容に適した最も効果的な形式を選ぶことが望ましい。
  - a. まえがき(研究の目的, 文献検討による当論文の位置づけ, など)
  - b. 記号
  - c. 本論(理論解析, 実験の方法と結果, 結果の解釈と考察, など)
  - d. 結論
  - e. 参考文献
  - f. 付録その他

- (2) 提出原稿テンプレートを参照すること。

### 2. 章, 節, 項などの番号

- (1) 章, 節, 項などの番号は次のようにつける。  
章 1. 2.  
節 1-1 2-1  
項 1-1-1 2-1-1あるいは(1)(2)(3)のようにする。  
項より下の小見出しは必要があれば①, ②, ③とする。

### 3. 原稿の記述

- (1) 記述はできるだけ簡潔にする。

### 4. 使用言語

- (1) 日本語(和文原稿)または英語(英文原稿)とする。

- (2) 和文原稿の文章は口語体とし、「漢字」は「当用漢字」、「かな」は「ひらがな」を用い、新かなづかいによる。ただし、外来語はカタカナ・英字を使用してもよい。
- (3) 英文原稿の場合も、「1. 論文の体裁」～「3. 原稿の記述」は和文原稿に準ずる。
5. 会誌記事における会社名、製品名の表示について
- (1) 製品紹介を除く会誌記事中に宣伝になるような会社名、製品名は掲載しないようにしているので配慮する。登録商標を普通名称のように使用すると商標権の侵害としてクレーム対象になる場合がある。
- (2) 書評に関しては発行所名が入るのはやむを得ないが、単なる宣伝とならないよう配慮する。
- (3) 書評の執筆者名、所属を文末に明記する。

## 3 章 図（写真を含む）および表

### 3-1 取り扱いについて

- 図(写真を含む)は著者提出のものをそのまま使う。
- 不鮮明な場合は著者に再提出を求める。

### 3-2 作成について

- 使用言語
  - 図（写真を含む）および表の使用言語は下記表による。

分類	キャプション	図表中の文字
論文	英語	原則英語
技術資料		
展望・解説		
他		
英語、日本語のいずれでもよいが、1つの原稿中ではいずれかに統一する。		

- 本文中の表記の仕方
  - 本文中では「Fig.1」「Table 1」のように表記すること。

### 3-3 留意事項

- 図および表は会誌の構成上ならびに読者の理解を深める上で特に重要であり、次の事項に留意願いたい。
  - 背景を白色にする。
  - 図および表のそれぞれについて、その記事を通じての通し番号を付ける。
  - 図および表には、内容を的確に表わす簡単なキャプションをつける。
  - 線が十分太く、かすれのない鮮明なものに限る。
  - 白黒印刷であることを考慮した図とする。

## 4章 量記号および単位記号，文字，数字記号および式について

### 4-1 用字・用語例

- 論文またはこれに準ずる原稿では，副詞，連体詞，接続詞，助詞などは原則として平がなで書くこと。その例を表2に示す。

表2 用語例

可	不可	可	不可	可	不可
あいにく あえて あたかも あるいは いう いかなる いずれ いつ いっしょ いっせい いっそう いったん	生憎 敢て 恰も 或いは 云う 如何なる 何れ，孰れ 何時 一緒 一斉 一層 一旦	いっぺん かえって かなり かねて ここ この しかし しばらく すべて せっかく その それ	一遍 却って 可也り 予て 此处，是，茲 此の，之の 然し，併し 暫く 総て，凡て 折角 其の 夫，其	たいそう ただ ちょっと …ついて ついに とおり はなはだ ひととおり もし もって やっかい …ら	大層 唯，只 一寸 …就いて 遂に 通り 甚だ 一通り 若し 以って 厄介 …等

### 4-2 単位・量記号

- 単位記号・量記号
  - 本文に使用する単位は原則としてSI(国際単位系)とする。
  - SIの使用についてはJIS Z 8000-1～JIS Z 8000-8を参照されたい。
- 字体他
  - 量記号は斜体，単位記号と元素記号は立体とする。
  - 図や表に使用する単位で，必要と思われるものには，換算法を付記する。

### 4-3 数学記号および式

- 数学記号および式
  - 数学記号はJISZ8201による。数式の中の文字は一般に斜体(イタリック体)であるが，量記号でない  $\log$ ,  $\sin$ ,  $\cos$ ,  $e$ ,  $\exp$  や数字などは立体とする。前項方法で指定すること。

## 5章 参考文献について

- 文献は本文の末尾にまとめて通し番号順(本文中で引用される順)に記載する。論文の場合には、英語の参考文献も併記する。
- 本文中では引用箇所の右肩に通し番号を小カッコで記入する。
  - 引用文献が1件のときの指示例  
例: ○○○の解析<sup>(1)</sup>
  - 引用文献が複数あるときの指示  
例例1: ○○○の解析<sup>(1)~(3)</sup>  
例2: ○○○の解析<sup>(1)~(3), (7)</sup>

3. 文献は次の記載方法による。

＜雑誌の場合＞

①著者名, ②題名, ③雑誌名, ④巻数—号数(発行年—月), ⑤ページ, ⑥DOI

例: (1) 九郎丸・他4名, 二重位相固定法による旋回失速セルの動画作成, ターボ機械, 27-8(1999), 502. DOI: 10.1XXXXX/tsj.XX.XX.XXX.

(2) Inoue M.・他3名, Propagation of Multiple Short-Length-Scale Stall Cells in an Axial Compressor Rotor, Journal of Turbomachinery Trans. ASME, Vol.122(2000), 45, DOI: 10.1XXXXX/tsj.XX.XX.XXX.

(3) Inoue M. et al., Propagation of Multiple Short-Length-Scale Stall Cells in an Axial Compressor Rotor, Journal of Turbomachinery Trans. ASME, Vol.122(2000), 45, DOI: 10.1XXXXX/tsj.XX.XX.XXX.

＜書籍の場合＞

①著(編)者名, ②書名, ③巻(1巻のみの場合は不要), ④(発行年), ⑤ページ, ⑥発行所. をこの順で記載する。

例: (1) 井上・木村・古池・他2名, 振動の考え方・とらえ方, (1998), 84, オーム社.

(2) King, R. J., Tobin, M. G., Flow in a Centrifugal Fan of the Squirrel-Cage Type, Trans. ASME, 112(1990), 84.

注1) 各項目は「, 」(カンマ)で区切る。

注2) 著者が3名以上の場合には, 第一著者名の後「・他〇名」というように記載する。但し著者3名以上の場合でも第一著者名以外の著者名も記載することができる。和文の場合は, 姓のみ記載し, 著者と著者は「・」(センタードット)で区切る。

例: 「山田・田中」, 「中村・他2名」

また, 英文(欧文)の場合は, 姓を記載し「, 」(カンマ)で区切ってイニシャルを記載する。著者と著者は「, 」(カンマ)で区切る。

例: 「Zimmerman, R., Harmon, H. A.」「Harmon, H. A.・他2名」

注3) 誌名は省略形がある場合にはこれを使用することもできる。

注4) 発行年—月は西暦で記載する。なお, 書籍の場合は発行月を省略してよい。

注5) ページは, 雑誌の場合には最初のページ(通しページ)を用いて記載する。

## 6 章 照会および校正

1. 会誌に掲載する原稿については, 本会において字句あるいは用語などを修正することがあるのでご了承ください。
2. 送付された著者校正用原稿については, 必要な指示事項を記入して期限内に返送願いたい。
3. 著者校正の段階で原稿内容の変更・訂正などによる文章の追加・削減は受け付けない。したがって原稿作成に際しては, 特に下記の点に留意されたい。
  - (1) 原稿は十分推敲されていること。(校正の際は, タイプミス以外は訂正できない)
  - (2) 文字や記号は明瞭に書き、必要に応じて「注」をつけること。
4. その他, 校正については本会の指示による。